

学校運営協議会議事録

日 時	令和8年（2026年）2月27日（金）13時30分～15時00分	
会 場	北海道鷹栖養護学校	
出席者	運営協議会委員4名	学校側7名
出席者	北海道鷹栖養護学校後援会会長 社会福祉法人鷹栖共生会理事長 元北海道特別支援学校長 北海道鷹栖養護学校長	副校長 教頭 小学部主事 中学部主事 高等部主事 寮務主任 支援部長
議 事	内 容	
1 開会	<p>学校長より、卒業式に向けた各学部の取組状況、感染症対策の現状が報告されるとともに、教科書配布に係る不備について関係者および保護者への謝意と説明が述べられた。</p>	
2 説明	<p>(1) 教科書配布について</p> <p>副校長より、特別支援学校における教科書制度および本校での教科書配布について説明があった。</p> <p>(2) いじめ防止基本方針</p> <p>生活指導部より、本校のいじめ防止基本方針について説明が行われた。いじめの定義は北海道条例に基づくものであり、SNS等を通じた行為も含め、児童生徒が心理的苦痛を感じる行為をいじめと捉えることが確認された。</p> <p>委員から、今年度のいじめ認知件数について質問があり、中学部において軽微な事案を1件認知したが、早期対応により現在は解消状態にあるとの説明があった。また、寄宿舎における状況について確認があり、現在、重大ないじめ事案は把握されていないことが報告された。</p> <p>これらの質疑を通して、本校の特性を踏まえ、児童生徒が自ら発信しにくい場合でも、教職員が日常的な変化を丁寧に捉える必要性が改めて確認された。</p> <p>(3) 学校評価における自己評価</p> <p>担当者より、令和7年度学校評価（自己評価および保護者アンケート）の結果について報告があった。自己評価では「組織的危機管理」が高評価である一方、「学校運営の方針共有」等に課題が見られた。また、保護者アンケートでは「生徒指導」「保護者との連携」は高評価であったが、「進路指導」に関する評価に学部間差があることが示された。</p> <p>委員から、「評価点の差が分かりにくいいため、低評価項目の要因分析をより丁寧にを行う必要がある」「授業や教育活動の実際を、地域や外部関係者が知る機会を増やすことが望ましい」などの意見が出され、学校側からは、評価方法や情報発信の在り方を含め、今後改善を検討する旨の回答があった。</p>	

<p>3 説明・協議</p>	<p>(1) 説明</p> <p>学校長より、学校経営の方向性を示すグランドデザインについて説明が行われた。これまでの取組を基盤とし、共生社会の実現に向けて地域との連携を一層重視していく方針であることが示された。あわせて、教職員アンケートにおいて概ね賛同が得られていることが報告され、今後は社会情勢や学校の実情を踏まえながら、必要に応じて内容を調整しつつ推進していくことが確認された。</p> <p>(2) 協議</p> <p>委員から複数の質問及び意見が出され、意見交換が行われた。</p> <p>主に、学校と地域との関係性について、「理念だけでなく、教育活動の中で地域とどのように関わっていくのかを具体的に示す必要がある」との意見が出された。また、地域体験や交流活動については、単発的な取組に終わらず、学習として位置付けた継続的な関わりが重要であるとの指摘があった。交流及び共同学習については、行事的な交流にとどまらず、幼少期からの継続した関係づくりが、相互理解につながるとの意見が示された。</p> <p>これらの意見を踏まえ、地域との協働を学校全体の教育活動として捉え、長期的な視点で取り組んでいく必要性が確認された。</p>
<p>4 閉会</p>	<p>学校長より、会議参加への謝意が述べられるとともに、教科書に関する説明が不十分であった点について謝罪があった。また、委員からの意見を踏まえ、教育活動の意義や価値を再確認し、地域との関係を大切にしながら学校運営を進めていく考えが示された。</p>